



何気ないひとときにも、家族の気配を感じていたいとの思いのもとにつくられた吹き抜けのダイニングキッチン。1階部分は将来、畳の間とダイニングキッチンの間に登を設け、和室部分をお母様の寝室にする予定。

誰

しもが抱く家への憧れや夢。中庭がある家、白いモダンな家……。思い描く夢は十人十色。OM HOUSEに住む夫妻が描いたのは「個性的な家」である。そのためにはと、迷わず建築士への設計依頼を決めた。建築家集団「アーキレーベル」を通して出逢ったのは馬場弘勝さんだ。

「個性的」といっても奇抜である必要はない。住まい手の人柄が表れれば自ずと個性的な家になるのですから。だから私の仕事は施主のエッセンスを抽出すること。無理も見栄もない、身の丈にあったものを一緒につくっていききたいと思います」。知識や技術はプロに及ばずながらも考え、選び、決断をし、共に一つの空間をつくる点において、施主の存在は言わば「三級建築士」と馬場さんは言う。

一家は各々に理想の間取りをスケッチして希望を伝えたり、空間構成から床の色に至るまで皆で話し合ったり。家づくりは家族でじっくり考え、納得しながら進められた。生活の様々なシーンを幾度も想像する中で、暮らしには存外無為に過ごす時間が多いのではないかということにも気づいた。吹き抜けのリビングは、無為な時にも家族の気配を感じていたいという思いゆえの選択だ。

「我が家をつくった、やり切ったという気持ちでいっぱい。住んでから一切不満はない。完璧です」と笑う施主。一際の達成感と満足感は、一家が馬場さんのもとの「三級建築士」として活躍したからに違いない。

vol. 18

スタイルのある空間

撮影=濱崎敏彦 取材・文=東 知愛子

■DATA

設計・監理/BGM建築設計
馬場弘勝・源野統夫
石川郡野々市町栗田1-118
☎(076) 248-2040
www2.ocn.ne.jp/~vava/
E-mail vava@quartz.ocn.ne.jp

一家全員参加の納得の家づくり。 OM-HOUSE



a.立方体の外観は施主夫妻のこだわりであった。右端の曲線を描いた壁は、玄関先に備え付けられた通称「招き壁」。家族や客人をやさしく招き入れるようなゆるやかなアールが、整然とした立方体の形をいっそう際立たせる。バルコニーは1階部分では日除けとしても機能。**b.**吹き抜けに面したカウンターコーナー。いずれは子どもの勉強スペースに。2階廊下部分には愛読書を収納するための作り付けの本棚も。**c.**ご主人の希望だった珪藻土の壁は、施主夫妻とその親戚や友人、馬場さんと氏の建築家仲間が協力して塗ったもの。床をはじめ本棚やカウンターコーナーも夫妻自ら白く塗装。白い空間で手すりやソファの赤色がアクセントに。